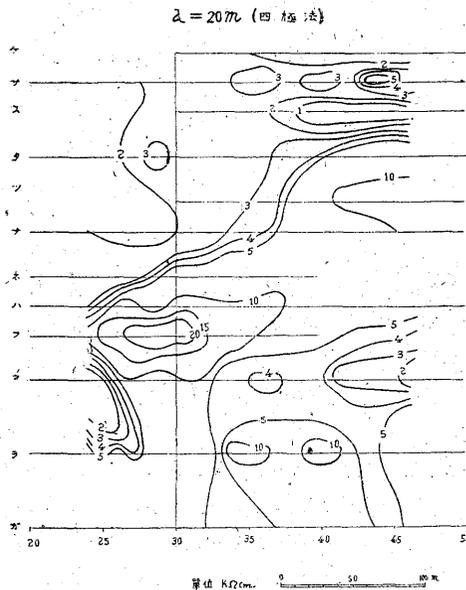


第5圖 (B) 比抵抗分布圖

抗は珪化帯或は石英粗面岩等の物質の分布によるものと考えられるが、新鑛床の存在を推定し得る程の徴候は認められない。「サ₂₂—タ₂₃」・「ス₄₅」附近の低比抵抗は其周囲に較べて特に著しい変化を示しているものでもないが、第4圖を参照すれば「ス₄₅」附近には一應鑛床賦存を推定してもよいと考えられる。

4. 結 論



第6圖 比抵抗分布圖

本鑛山で実施した電気探鑛法は自然電位法及び比抵抗法である。其結果自然電位法により「サ₃₄」「ス₄₂」附近に餘り顯著ではないが負中心を認め、又比抵抗法でも餘り顯著な徴候は得られなかつたが、兩結果を考究して一應この附近に潜在鑛床を推定し得るので、之に對しては更に探鑛を進める必要があるものと考えられる。其爲には先づ試錐を實施することが適當であり、その地點としては「サ₃₄」・「ス₄₀」附近が最適と考えられる。

雜 報 欄

553.623 : 550.8 (521.22)

茨城縣常陸太田町附近の天然珪砂

〔位置・交通〕

茨城縣久慈郡金郷村中利員附近一帯。常陸太田町の北西12kmで、バスの便がある。

〔地質及び珪砂層〕

地質は第三紀層の凝灰岩質頁岩からなり、極めて緩く西に傾斜している。これを覆つて珪砂層及び、礫層が發達するが、之を缺く場合もある。珪砂層は礫層の下部に2m乃至4~5mの厚さで存在するもので、頁岩の薄層を數枚夾有し、又礫層に近い部分には小礫を混えている。問題の個所は金郷村田中の南西6~700mの地點で直徑約100m位の範圍内は礫層を缺き、天然に水洗された白色珪砂が地表を覆つている。1ヶ所試掘の結果は地表から深さ2間以上珪砂層が連続し、下部の方が比較の色が白いと云われるが、これは小珪砂層の中心部に當り、偶

々表土が極めて薄いと推定され、他の觀察し得る露頭に於ては悉く珪砂層は薄く且品位が極めて低い。又厚さ2m乃至4m位の礫層に覆われている所が多い。

〔珪砂〕

今回の調査範圍では珪砂は全體として赤褐色を呈し、粘土、長石、珪岩礫、頁岩礫、角閃石等不純物を多量に混えている。珪砂粒は1mm程度以下で微粉を混え、透明な石英粒である。良質と見られる部分を充分水洗したもの、分析値は次の通りである。(分析は徳永ガラス株式會社)

SiO ₂	Al ₂ O ₃	Fe ₂ O ₃	CaO+MgO	AlKali
92.13	4.54	0.16	0.62	2.10

この値は鐵分少く、やゝ良好であるが、鑛床全體としてはこのような部分は極めて少ないと見られる。

〔結論〕

本地域の珪砂は品位低く、量も充分期待出来ないのでガラス原料用にはならない。鑛物用珪砂としては此種低

品位珪砂は、他に多くの産地があるので、本地域の珪砂を新たに開発する必要は認められない。(安齋俊男)

553.31 : 550.8 (521.12)

岩手縣和賀仙人鑛山報告 (昭和22年2月調査)

〔内容目次〕

I 緒言, II 鑛區, 位置及び交通 III 地形及び地質概説, IV 地質各説, V 鑛床概説, VI 鑛石の一般的性質, VII 品位及び鑛量, VIII 鑛床の成因考察, IX 鑛床各説, X 沿革及び現況, XI 開發及び探鑛に對する意見(附圖4葉)

〔要約〕

和賀仙人鑛山は岩手縣和賀郡岩崎村, 同湯田村にあつて, 附近は川尻凝灰岩(第三系)の基盤をなす古生層とその中に侵入する花崗閃綠岩乃至石英閃綠岩からなり, 第三紀の石英粗面岩の岩脈は主として古生層中を貫く。

鑛床は古生代石灰岩と侵入岩との境に發達するスカルン帶中に胚胎する石英脈を伴う雲母鐵鑛の鑛染乃至交代鑛床で, 球狀, レンズ狀, 筒狀の鑛體をなす。

鑛石中の脈石としては石英, 綠泥石を主とし, 其他灰鐵輝石, 綠廉石, 柘榴石等のスカルン鑛物がある。鑛石鑛物としては雲母鐵鑛の外に黃鐵鑛を含み, 又黃銅鑛の少量を含むことがある。本鑛床はスカルン化作用に引續く熱水期の所産と考えられる。

鑛量は遠平鑛床下部, 上部の残り主要部である。(高島彰)

553.435+553.44 : 550.8 (524)

北海道北見國伊奈牛鑛山概査 (昭和22年6月調査)

〔内容目次〕

(1) 緒言, (2) 位置, 交通及び地形, (3) 地質, (4) 鑛床, (5) 品位及び鑛量 (6) 沿革及び現況, (7) 産額, (8) 結語 (附圖3葉)

〔要約〕

伊奈牛鑛山には金銀鑛床, 銅鉛亜鉛鑛床等約8箇の鑛

床群があるが, 茲には主として三號坑に就いて調査報告する。本鑛床は中生層と云われる粘板岩, 砂岩及び之に侵入する玢岩類岩脈内に發達する細い石英脈で, 5本の平行脈がある。其中2本は開發され, 他は探鑛中である。尙探鑛餘地は多い。當時日産目標130吨で, 浮選により銅・鉛・硫化鐵鑛の三種が精鑛として得らる。(伊藤昌介)

553.497.1 : 550.8 (522.6)

大分縣三菱尾平鑛山附近の地質鑛床(砒鑛を目的とする)調査報告 (昭和22年9月調査)

〔要約〕

三菱尾平鑛山は古生層・石英粗面岩・安山岩・花崗岩・花崗斑岩を母岩とする鑛床である。鑛床は錫本錫・銅砒脈の二主脈からなる。錫・銅・砒・礬素の複雜鑛脈である。銅砒脈は砒鐵鑛・黃銅鑛・閃亜鉛鑛・硫錫鑛・方

鉛鑛・黃鐵鑛等よりなり, 脈石は石英で稀に電氣石を含む。品位は平均 As 8.0%, Cu 1.8%程度で, 鑛量は下部に期待し得る。現在は砒鐵鑛・黃銅鑛を浮選採取す。

(伊藤 恭)